

③ 平成 26 年度「自立と体験 1」実施報告

平成 26 年度全学初年次教育「自立と体験 1」実施報告書

「自立と体験 1」担当副学長 高島 秀樹
 明星教育センター長 原田 久志

1. 総括

「自立と体験 1」は現状に甘んじることなく、不断の改善過程の中で、受講した学生の反応はもとより担当教員・SA の意見をもとにして教案に工夫を加えてきた。こうしたことは、学生への教育効果の充実を更に高め、他方「自立と体験 1」が入学前の高校生にも周知され、学外からも注目される中で 5 年目を迎えた。今年も「自立と体験 1」に関わった方々からの貴重な意見をもとに、今年度の概括的な報告を行なう。ここでは、学生によるアンケート結果をもとにしての報告とする。

(1)出席率

今年度の出席率は、85.2%と5年間の中で一番高い数字である。以下に、①平均出席率、②5年間の15回出席率のグラフを示す。

表 1 「自立と体験 1」各年度の出席率

| | 平成 26 年度 | 平成 25 年度 | 平成 24 年度 | 平成 23 年度 | 平成 22 年度 |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|
| 出席率 | 85.2% | 84.5% | 85.1% | 84.9% | 82.7% |

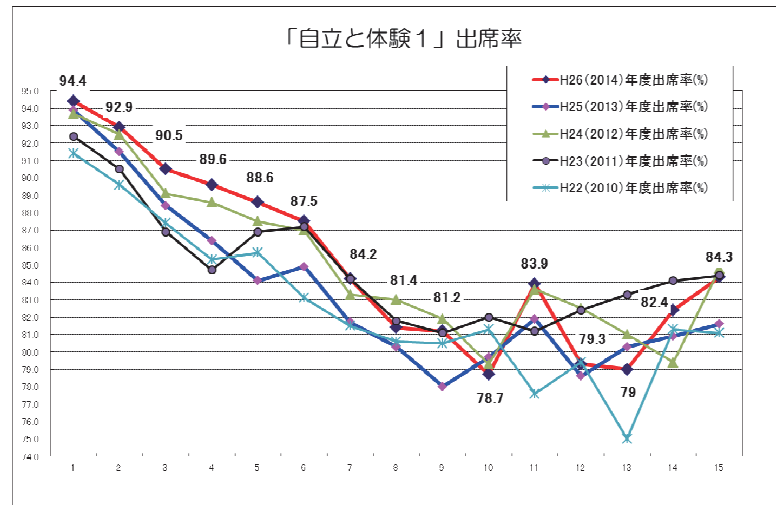


図 1 5年間の各回における出席率

今年度の特徴は、1回から7回までは、5年間で最も高い出席率である。11回目を持ち直し、15回目でも高い出席率になった。詳細な分析までには時間の関係で至っていないが、出席率低

下は、降雨による天候の要因も挙げられる。また、7月以降多くの学生から聞いたことは、課題提出・試験勉強準備に関する内容であった。

(2)学生の自己評価の変化

授業を通じて学生の学習効果を確認するため、1回目と15回目で同一の質問項目を複数設定した無記名のアンケートを実施している。8項目の設問では7項目が望ましい方向での変化を示した。中でも、下記の「敬意・関心をもって他者の話を聴く」「学生時代にするべきことを考えている」「卒業後にしたいこと」などの項目に、肯定的な回答をする学生が増えてきている。このことは、(4)で後述する「ためになった授業」として上位にランクされた授業内容と密接なつながりがあると考えられる。

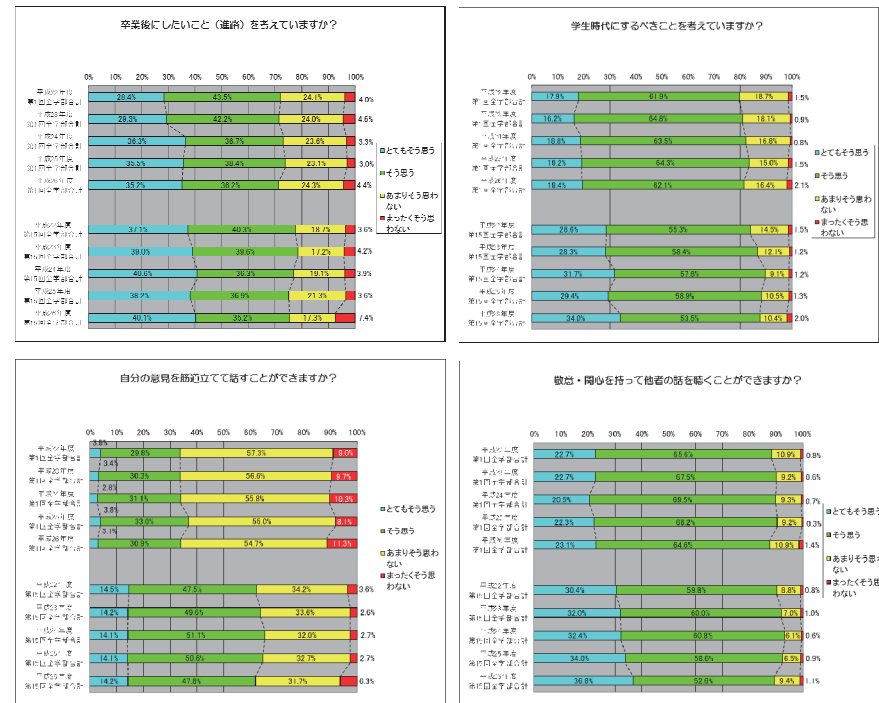


図 2 学生アンケート結果

(3)授業の特徴について

「自立と体験 1」の授業の特徴に関する設問では、今年度の数値は僅かながら下回ったものの5年間で比較しても差はほとんどない。ただ、今年度の特徴として、「とてもそう思う」といったより積極的な評価が、過去4年間に比べると約10ポイント高くなっている。「グループ活動」「少人数クラス」は50%の学生が、「他学部・他学科との交流」は60%の学生が「とてもそう思う」と回答している。学生からも、「いろいろな価値観に触れて考えさせられた」といった回答が多く寄せられた。また、担当教員からの意見聴取、TA/SAによるアンケートでも「他学部の学生との交流は貴重である」等の意見が多かった。学生の自由記述の欄でも、他学部との交流と少人数への評価は高い。この授業の特徴としての学部横断型での少人数クラスによる、グループ学習が定着したといえる。

表2 学生アンケート結果「自立と体験1」での特徴に関する設問

| 設問内容 | 平成26年度 | 平成25年度 | 平成24年度 | 平成23年度 | 平成22年度 |
|---------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 「少人数クラス」は役に立ちましたか | 89.5% | 91.60% | 91.80% | 90.00% | 89.90% |
| 「他学部・他学科の学生との交流」は役に立ちましたか | 92.3% | 92.70% | 93.30% | 92.70% | 92.60% |
| 「グループでの学習活動」は役に立ちましたか | 90.3% | 92.00% | 91.40% | 90.60% | 89.20% |

※いずれも「とてもそう思う」「そう思う」と答えた学生の比率

(4)「ためになった授業」

「ためになった授業」として印象に残っている授業内容を複数回答で問う設問項目である。学生の平均回答数は、1人5.0であった。今年度の特徴としては、「新しい環境で他者と出会う」が全回答数の11.5%の974を数えている。ポートフォリオに「人見知り」と記載した人との交流に不安が多い学生が、人と関わりながら学ぶ中で徐々に自信を深め、「自分や相手の大切さを知り」他学部学生との交流から多様性を理解し、自信を持ち「これからの学生生活を描き」「卒業後の自分をイメージ」するような全体の流れに、この授業の特徴が表れている。

| 期別回数 | 第1回 | 第2回 | 第3回 | 第4回 | 第5回 | 第6回 | 第7回 | 第8回 | 第9回 | 第10回 | 第11回 | 第12回 | 第13回 | 第14回 | 第15回 | 合計回数 | 全回答数 |
|-----------------|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平成22年度 (n=1715) | 人数 370 | 484 | 714 | 181 | 438 | 463 | 396 | 463 | 350 | 513 | 407 | 369 | 237 | 339 | | 5441 | 3.2 |
| 平成23年度 (n=1820) | 人数 523 | 674 | 770 | 793 | 700 | 621 | 589 | 465 | 806 | 855 | 630 | 764 | 688 | 818 | | 9921 | 5.5 |
| 平成24年度 (n=1742) | 人数 498 | 723 | 462 | 750 | 663 | 465 | 247 | 563 | 494 | 730 | 665 | 693 | 767 | 791 | | 9037 | 5.2 |
| 平成25年度 (n=1760) | 人数 432 | 657 | 461 | 750 | 677 | 368 | 273 | 530 | 464 | 785 | 683 | 588 | 784 | 851 | | 8939 | 5.1 |
| 平成26年度 (n=1715) | 人数 295 | 674 | 455 | 713 | 567 | 340 | 288 | 518 | 459 | 861 | 570 | 467 | 729 | 783 | | 8507 | 5.0 |

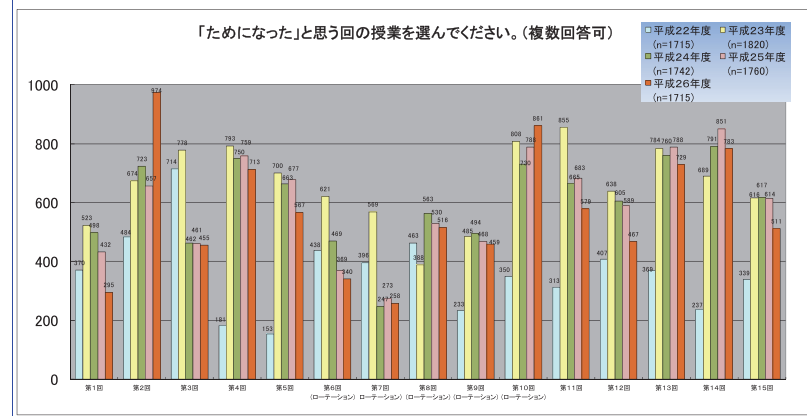


図3 学生アンケート結果「ためになった授業」

2. 昨年度の実施を踏まえての改善事項

(1)単位修得率の向上

平成26年度の前期授業期間内での単位修得率は、以下のように高い数値を示している。各年度の単位修得率は以下のとおりである。

表3 「自立と体験1」単位修得率

| 開講年度 | 平成26年度 | 平成25年度 | 平成24年度 | 平成23年度 | 平成22年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 単位修得率 | 91.3% | 91.45% | 91.0% | 88.5% | 89.9% |

現在、実施している補習授業による合格者を含めると、単位修得率は更に向上することになる。今年度も単位修得率維持のために努力しており、①授業内容の改善、②欠席学生への電話連絡の徹底(2回連続欠席学生)、③学部事務室・学生サポートセンター等との学生情報の細かな共有によるサポート、④各クラスでの教員による学生への対応、⑤SA/TAのサポート、⑥明星教育センターを中心とする全学的な取り組み等を実施した。引き続き、単位修得率維持を目指していきたい。

(2)授業内容の更なる改善

今年度も「さらに学生にとって有益な授業」を目指し下記の授業回において内容の改善を図った。改善した内容は多岐に亘るが、主なものにここではとどめる。

| 授業名 | 改善事項 |
|-------------|---|
| 「図書館にふれる」 | 図書館クイズ、ブックフェッチの設問を見直しと出題分野の偏りを改めた。 |
| 「自分や相手を大切に」 | ハラスメントクイズを、単に○×の判断とすることなく、学生が問題について考えることに重きを置いた。意見交換を重視し、グループで深く考えるようにした。 |

3. 来年度に向けての改善事項

(1)出席率の向上

「自立と体験1」全クラスの平均出席率は今年度85.2%であり、全15回の平均的な欠席回数は2回強である。欠席が4回以内の学生は全体の91.3%、欠席が5回から7回(補習対象)の学生は全体の4.1%であり、高い出席実績を示している。今年度も出席率の更なる向上を目指した。担当教員による熱心な指導はもとより、大学生活へのスムーズな適応を他部署とも連携を図り進めてきた。プログラムの改善による、学生が“学んだ”としての実感を深めることにも毎年取り組んでいる。

さらに、グループワーク中心の授業は、学生一人ひとりに様々な役割を持たせているため、遅刻や欠席がクラス運営に支障をきたすだけでなく、自分自身、クラスメイトの「学び」にも影響することを理解させる。そうすることで、学生自身の真の成長を促し、遅刻や欠席に対する意識改善をはかりたい。

報告書制作：明星教育センター

百木英明、榎本達彦、太田昌宏
鈴木浩子、高橋南海子、平塚大輔、
南 愛

以上

構成員：24名

| | 選出根拠 | 氏名 | 所属 | 備考 |
|----------------------|-------------------------------|-------|----------|-----------------------|
| 委員長 | センター長 | 原田久志 | 理工学部 | 明星教育センター長 |
| 委員 | 副センター長 | 合田一夫 | 理工学部 | 明星教育センター副センター長 |
| | 学部等からの選出教員 (原則「自立と体験」担当教員) | 緒方正幸 | 理工学部 | 原則として 「自立と体験1」担当教員 |
| | | 菊地滋夫 | 人文学部 | |
| | | 岩谷禎久 | 経済学部 | |
| | | 香椎正治 | 情報学部 | |
| | | 羽矢みずき | 教育学部 | |
| | | 福島隆 | 経営学部 | |
| | | 池谷聡 | デザイン学部 | |
| | 「自立と体験1」を担当する 常勤・特任教員 | 鈴木時男 | 全学共通教育 | |
| | | 百木英明 | 教育学部 | |
| | | 平塚大輔 | 明星教育センター | |
| | | 榎本達彦 | 明星教育センター | |
| | | 鈴木浩子 | 明星教育センター | |
| | | 太田昌宏 | 明星教育センター | |
| | センター職員 | 高橋南海子 | 明星教育センター | |
| | | 南愛 | 明星教育センター | |
| | | 御厨まり子 | 事務局も兼ねる | |
| | 渡辺貴司 | | | |
| | 萩原陽子 | | | |
| | 教務企画課職員 | 今井利憲 | | |
| キャリアセンター職員 | 前原征司 | | | |
| 通信教育部職員 | 田野耕司 | | | |
| 学長が必要と認めた教職員 (再掲) | 菊地滋夫 | 人文学部 | | |

平成26年5月15日現在

第1回委員会

日時：平成26年6月5日(木) 18:10~19:40

場所：本館5F 508会議室

議題等

1. 明星教育センター長挨拶
2. 全学初年次教育に関する委員会委員および委員会について
3. 平成26年度「自立と体験1」授業(通学課程)について
【報告事項】
①実施状況について
(出席状況、欠席した学生フォロー状況、ランチミーティング、ニュースレター等の報告含む)
- ②担当教員からの代講、補講措置依頼について
- ③「自立と体験1」『大学職員に取材する』説明会について
『図書館にふれる』について
【審議事項】
(1) 今後の予定について
①補習授業の実施について
②アンケートの実施について
③第三節説明会について
4. 平成26年度「自立と体験1」授業(再履修)について
5. 平成26年度「自立と体験1」授業(通信教育課程)について
6. その他

第2回委員会

日時：平成26年7月3日(木) 18:10~19:40

場所：本館5F 508会議室

議題等

1. 平成26年度「自立と体験1」授業(通学課程)について
【報告事項】
①実施状況について
(出席状況、欠席した学生フォロー状況、ランチミーティング、ニュースレター等の報告含む)
- ②担当教員からの代講、補講措置依頼について
- ③「自立と体験1」第三節説明会について
- ④授業見学について
【審議事項】
①補習授業について
②各種アンケート実施について(学生、教員、職員、SA/TA)
③報告書作成について
④平成26年度「自立と体験1」SA/TA募集について
2. 平成26年度「自立と体験1」授業(再履修)について
3. 通信教育部 「自立と体験1」について
4. その他
①8月2日(土) 創立50周年記念公開シンポジウムについて